



公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10
 TEL<058>244-0150 FAX 244-0151
 ホームページ <http://www.ktroad.ne.jp/~gikyoo/>

私は岐阜県交響楽団とのご縁は2009年創立55周年記念の際にウイーン学友協会、黄金ホールにてウイーン公演に伺ってからです。

その年、私は岐阜青年会議所（岐阜J.C）の理事長を務めており、ウイーンでの民間交流活動の一助として、岡本理事長をはじめとする諸先輩方と共に岐阜J.C 謡曲部みなもと会の一員として謡曲の素謡を披露させて頂くことができ、その晩に幸せにもウイーンの黄金ホールにて岐響にとつての歴史的な演奏の一幕を垣間見ることが出来たのです。

当日、ウイーンの街を歩いてみますと、バス停などに大きく岐阜県交響楽団の演奏の予告が貼ってあり、岐阜の人間としては



「地元オーケストラがある幸せ」

公益社団法人岐阜県交響楽団
 理事 内藤 宙

大変、誇らしい気持ちになったのを今でも覚えています。ウイーンでは市民がオーケストラを愛する気持ちと、注ぐ情熱と力が素晴らしい、その長い歴史と相まって世界有数のオーケストラのバックボーンになっているとつくづく感じました。まさに黄金ホールはその想いと歴史が結集された素晴らしいコンサートホールでありました。そんな素晴らしい空間に酔いながら、渾身の演奏に聞き入り、そして演奏終了後の割れんばかりの拍手と演奏された皆さんの素晴らしい笑顔は一生忘れることは出来ません。

そんなご縁があった後、3年後に岐阜J.C 60周年事業として当時の後藤理事長が、「3000人の第9」を企画したいという話がありました。諸先輩方が紡いできた60年の歴史の縦の糸と、岐阜の大勢の皆さんの力の横の糸を結ぶ一大事業を行いたいという考えに共感し、歴代理事長でもあられる岡本理事長のもとに相談に伺いました。

そんなひとつづくり・まちづく

り運動の想いに快くご賛同を賜り、60年間の長い歴史の中の先輩、後輩が力を合わせ、大事業がスタートし、私も陰ながら協力させて頂くこととなりました。一年足らずという限られた時間の中、いくつもの公演を抱えながら岐響の皆さんには、指揮者としてご指導にあたられた井村 誠貴先生のもと日々練習を積み重ね、大変、ご尽力を頂きました。

設営する岐阜J.Cのメンバーと、大勢の岐阜の皆さんとの合唱の練習、オーケストラとの合同練習が何回も行われました。私もバスのパートの合唱団の一員として参加させて頂きました。が、ドイツ語の歌詞と音程を覚え、しかもそれが3千人！現実が進み始めると、目指す山が如何に高いかがわかってきました。

しかしいくつもの困難を乗り越え、岐阜J.Cのメンバー、岐響の皆さん、そして参加された大勢の岐阜の皆さんは岐阜メモリアルセンターで愛ドームにてベートーベン交響曲第九番歓喜の歌を歌い上げ多くの感動を生み出したのです。私も合唱・演奏が終わった後、歓喜のあまり涙を抑えることが出来ませんでした。多くの参加された方々も涙されており、文字通りで愛ドームは歓喜の渦で溢れていま

した。

あれから5年程経ちますが、当初、全くクラシックに造詣のなかったJ.Cメンバーが今でも第九の演奏を聴きに行き、当時を思い出し、胸を熱くする、という話を聞き、皆さんの努力がクラシックのファンの裾野を確実に広げたと感じます。

以前のこの「ひびき」の記事で岡本理事長が「地域の文化のバロメーターは地域の交響楽団である」という一節を載せてみえました。織田信長が岐阜城に入城され岐阜という名をこの地に命名して450年を迎えます。楽市楽座で賑わう岐阜のまちは文化レベルでも日本のまちなちであつたと思えます。清流長良川を代表とする自然あふれる岐阜は歴史も謡曲、茶道などの日本の伝統文化もあり、サッカーのFC岐阜や野球などのスポーツ文化もあり、そしてクラシックにおいては、公益社団法人岐阜県交響楽団があるのです。

地元オーケストラがあることに心から感謝し、その幸せを一人でも多くの皆さまと共有すべく、これからも尽力させて頂きたいと思えます。

（内藤建設株式会社 代表取締役社長）

小田野宏之先生 インタビュー

小田野先生には今回岐響を初めて振っていただくのですが、まずどんな印象をお持ちになりましたか？

まず来てびつくりしたのが、この立派な練習場で、ハード面でごんごんに恵まれているオーケストラはな

いだろうと思ったことです。ところが前回初めて練習した時感じたのは、ハード面だけではなく、ソフト面でも素晴らしいこと。みなさんしっかりと練習をしてきている。さらに練習の期間中にごんごん向上していく感じっていうのがよくわかる。やっぱり歴史の長いオーケストラの強みというか、習慣になっ

が、ツアーカーで通じることが多い

ですね。勿論演奏を止めて言葉で私がい

今回の演奏会、どのような演奏をイメージされているのですか？

特に展示会の絵は、「小田野の展覧会」じゃなくて、「岐響の展示会」を目指しているつもりです。曲自体がそういうキャラクターの曲で、オーケストラの良さを引き出せる曲ですよ。時々アマチュアの場合

か、っていうものを目指してやります。だから余計に楽しみます。どう料理したらいいのか楽しみます。

今回のこのプログラムを、どのように捉えられていますか？

割とユニークなプログラムだと思います。3曲がそれぞれ全然違うキャラクターなので、そこをお客様に楽しんでいただけるのではないかと思います。演奏者としては少し難しいですね。同じ色で3曲演奏しては、それぞれの曲の個性が失われてしまいます。様式感とか、取り組む姿勢とか、或いはイメージというのを3曲それぞれで分けな

本日の練習で、一つ一つの細かい部分の音を先生に作っていただくことで、その曲が持つ全体のイメージまでがはつきりと浮かんできていたことが印象的でした。そこで、練習、ということでお話をお聞かせ下さい。

みなさんが練習中に言われたことをやって、こうやったらOKが出

たからこうなんだ、ではなくて、言われたことをやったら、こんなに見方が変わったとか、凄くよくなったとか、受け渡しがうまくいくようになった、など、実感としてみなさんが味わえるような練習を目指しています。正確に演奏するための練習も、勿論大事なんですけど、そうなり過ぎずに、ここがうまくいったら他もうまくいく、というようなポイントっていうのをしつこく練習するようにしてつもりです。

そしてやっぱり楽しく演奏しなきゃいけないから、練習がまるで怖い先生の授業みたいになっちゃ絶対いけないと思います。笑えばいいというものでもないですが、どこかに常に笑顔と、それこそshall we dance? じゃないですけど、体で乗って演奏する雰囲気もないと、出来るものも出来なくなってしまう。音楽ってもともと楽しいものだから、変なプレッシャーをかけすぎず、でもここぞっていうところは、ちよつと可哀そうかな、ぐらいの領域までちよつと突っ込んで、その結果が理解されるようにしたい。なかなかうまくいかないんですけどね(笑)。

先生は音楽をやられる際、今回の演奏に限らず、どういったことを一番大切になさっていますか？

やっぱり作曲家が何を考えて書いたんだろうか、ということを読み取りたい。謎解きのような面もありますけど、作曲家にもいろいろなキャラクターがありますね。例えばモーツアルトはあんなに美しいメロディーで音楽を書いているんだけど、実際はかなり下ネタも多かったりとか(笑)、変人だったりとか、でも純粹であるとか。音符と作曲家が結びつかない曲をどう結びつけるか。出来るだけ偉大な作曲家に自分を近づけたい、っていうのは常に考えていますが、正解があるわけではないですから、これは自分の中で一生続くものだと思います。

個人的に凄くお伺いしたかったことなのですが、先生はオランダ放送ファイルを指揮なさっていますね！

あれは素晴らしいオーケストラですね。僕がコンクールの時に初めて出合ったオーケストラで、二次予選の時だったかな、魔弾の射手か何か

で、僕の順番が午前の部の最後だったんですよ。それで控室で待つてる、僕の前の指揮者が割とオーケストラとうまくいってなくて、オーケストラにイライラが募ってるのが丸わかりで、僕の順番が来るわけですが、このままではまずいなど思ってます、



「みなさん、大変お疲れでしょうし、私が最後だからもうちょっと我慢していただき、みなさんとい音楽をやっておいしいランチを食べたいと思います！」と言ったらとてもいい拍手が帰ってきた。もう後は自分の音楽をやって、練習に集中して、そしたら凄くオーケストラの反応も良かったんです。

それで予選が終わって、「ありがとうございまして、良いランチを！」って挨拶したら、控室にわざわざ何人かの楽団員が来て、「あなたがほんとにいい音楽をやってくれたから、おいしいランチが食べられるよ！」って言ってくれたんです。あのいい感じ、あの優しさは忘れられないですね。本選のブラームスの2番も素晴らしくて、僕の音楽人生の中で、大事な瞬間、大切な宝物くれたオーケストラでしたね。

最後に、岐響に対して一言お願いいたします。

やっぱり、プロアマ関係なく、オーケストラっていうのは表現をするものですよね。だから自分たちで演奏することに満足するのではなくて、自分たちの演奏がどう聴いてもらえるのか、逆に言えばどう聴いて欲しいのか、っていうのを表現しなきゃいけないと思うんですよね。練習っていうのは結局そこところを僕がお手伝いすることだと思つて、今日も繰り返し何度か音程とリズムは正しいんだけど

ど、何かを訴えてくる力が少ない演奏っていうのは避けたいと思います。だからまずは、最初から一緒になるうする以前に、自分としてはどう感じているのか、それこそ「何色？」って聞いたり、「この温度は？」とか聞いていますでしょ。自分でどう考えているのかっていうのを、しっかりと持って演奏に臨んで欲しいと思います。私はこう思う、私はこのアクセントはもつとシャープにやるべきだと思う、等、まだ凸凹していい時期かなと思います。それを分かった上で歩み寄る。パートとして、一つの表現に近づけてみんなと同じ方向を向くようにするのが私の練習だと思っています。個人でイメージを持つ、っていうことはもっと積極的にしてもいいと思います。これは岐響に限ったことではないんですけど、岐響はそれが絶対出来るオーケストラだと思います。

大変興味深いお話し、ありがとうございました！

インタビュアー Hr 畑 匠人

莊村清志先生

インタビュ

日本を代表するギタリスト莊村清志さん。大変なご多忙の中、お電話にてインタビュをさせていただけるといふ大変貴重な機会をいただくことが出来ました。アランフェス協奏曲についてのお話を中心に、とても気さくににお話ししていただきました。

今回、岐阜県交響楽団と共演していただけること、とても嬉しく楽しみにしております。しかも曲目がアランフェス協奏曲です！

オーケストラとの共演では始めての曲がこのアランフェス協奏曲でした。スペインでの4年間の留学から帰国して3年くら

い経つてからですかね、この曲を弾く機会がありまして、それが最初のオーケストラとの共演でしたので、とても印象に残っています。

もちろんこの曲のことは演奏する前から知っていて、イエペス先生の演奏も聴いていました。ギター協奏曲の中でも最高の名曲だと思っていました。

2008年にはレコーディングも行いました。ビルバオ交響楽団（スペイン）と行いましたが、向こうへ行つてレコーディングしました。

第一楽章は8分の6拍子と3分の4拍子が混じっていて、これはフラメンコの曲のリズムからきています。その点を把握して、スペインのフラメンコの雰囲気

をうまく出さなければいけない。

第二楽章はすごくいろいろな形でアレンジされて有名なメロディーのある楽章です。この曲を作曲する直前に、ロドリゴさんの家庭の中で不幸があつて、ロドリゴさんの心の悲しみが表れている曲です。その点はいつもうまく表現できるように心がけていますね。

そして第三楽章は最後には幸せに終わるように明るい雰囲気を持った曲、といった感じで、各楽章の持つ個性を把握しながら演奏するという事は常に意識して演奏していますね。

これまでに莊村先生は何度もアランフェス協奏曲を演奏されてこられましたね。

若いころは第一楽章や第三楽章は、すごく速いテンポです。飛ばすような感じの勢いで弾い

て演奏していたのですが、最近はそのうちなくなって、もっとゆったりしたテンポ、曲の一拍一拍に自分の気持ちを込めて弾くように変化してきました。曲の味がより豊かに表現されるよう演奏しています。

莊村先生は岐阜市のご出身でいらつしゃいます。

岐阜は大好きな故郷です。生まれてから小学校を卒業するまで、岐阜市の本荘というところに住んでいました。今はもうだいぶ変わっていますけど、僕の住んでいたころ周りは田んぼや畑ばかりでした。本当に田舎の原風景というか、その雰囲気が強く心に残っていて僕の故郷だと思つています。

一方でスペインは16才から20才まで過ごした第2の故郷という感じですか。僕の青春時代をそこで過ごしました。

今回、そういったことを踏まえて2つの故郷が重なり合うということを意識して演奏できれぼと思います。

スペインの留学から帰国後に岐阜でリサイタルをなさっていますね。

帰国リサイタルの時は岐阜で演奏会をしてその後東京で演奏会をしました。岐阜での演奏会では、4年間向こうで勉強した成果をしつかり出さなければいけないという思いで緊張感の中の演奏でした。でもやはり自分がまた故郷に帰ってきて、こうやって演奏会が出来るという嬉しい気持ち相まって、今でもこの時の演奏会はとても印象に残っていますね。

今回、岐阜県交響楽団と共演していただきありがとうございます！

もうずいぶん前、40年くらい前だと思えますが、父から、「岐阜にいいオーケストラがあるからいつか一緒に演奏できるといいね。」と言われていたことを覚えてますよ。

今後のご活躍のご予定などはいかがですか？

今後各地で演奏会を行っていきませんが、来年が70才になるので、東京の紀尾井ホール主催の70才バースデイコンサートがあります。

本日はお忙しい中、貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございます！

電話インタビュー

Hr 畑 匡人

アレンジフェス協奏曲の練習でギターを代表

Vc 今岡 桂さん

今回のアレンジフェス協奏曲の練習では、莊村さんが御来団されるまでの期間、代わりにギターを演奏していただいたのが、普段は岐響チェロ奏者の今岡桂さんでした。しかも今岡さんにとって莊村さんは憧れの先生であり、今回はとても不思議なご縁での演奏会です。ご本人のギターのことや、莊村先生のことなど、お話しただきました！

■ギターとチェロ

岐響チェロパートに在籍をしています。もともとチェロを弾いていた訳ではなく、音楽との出会いはギターでした。

8才の時に父の影響でクラシックギターを習い始め、日本ギターマンドリン連盟会長の

伊藤尚生先生に師事し、高校生の時に全課程を修了しました。その後、フォークやロックバンドの活動をし、クラシック音楽からはすっかり離れていましたが、縁があつてチェロや岐阜県交響楽団に出会い、クラシック音楽に触れ、改めてクラシックギターを手に取りました。現在ギターもチェロも勉強中です。

■憧れの莊村清志先生

小学生の頃にNHKで「ギターをひこう」という番組が放映され、莊村清志先生が講師でした。また、当時はカセットテープが販売されていて、先生が演奏された「禁じられた遊び」や「アルハンブラの思い出」をテープが伸びるまで何

度も聴いていました。大人になり、縁というのは不思議なもので、私が習っていた伊藤先生は生前に荘村先生と親交があったそうです。また、一昨年には知人の紹介で荘村先生の公開レッスンを受講し、直接ご指導いただきました。そして今回、岐響が荘村先生と共演し、子供の頃には想像もしなかった事が現実となります。

■アランフェス協奏曲について

第2楽章は有名な旋律がソロギターでも奏でられますが、個

曲については別紙面で詳しく紹介されますので、ギターを弾いた事がある者としての感想を述べたいと思います。この曲は冒頭からギターが活躍し、ギターの楽譜には「ラスゲアード」という指示があります。これは右手で弦をジャカジャカとかき鳴らす弾き方で、クラシックではあまり見られない、スペインのフラメンコギターの奏法です。



昭和56年～当時の「ギターを弾こう」テキスト
公開レッスンでサインしていただきました。

人的には伴奏でコード(和音)をジャランジャランと弾いてる部分がギター弾き冥利につきます。

第3楽章はギターが躍動し、わたくしアマチュア奏者には難関です。ここで荘村先生のレッスンを受けた時にご指導いただいた言葉を思い出します。

「ギターは音が小さい楽器です。でも音が小さい所が良いのです。無理に力んで弾こうとせず、様々な音色を豊かに表現できるギターの魅力を活かしてみましよう」と。とにかく大きな音を出そうとしたり、やたらと早く弾こうとして、余計な力が入っていた私にそう教えて下さいました。

今までにお世話になった方々や音楽仲間感謝をし、荘村先生の演奏を聴きたいと思えます。とても楽しみです。



岐阜県交響楽団とアランフェス協奏曲を練習中の今岡さん

ファミリートコンサートについて
Ve 川口 芳夫

今年のファミリートコンサートは、岐阜県立岐阜総合学園高等学校太鼓部のお二人の大活躍もあり、大変ご好評いただきました。私がこのコンサート企画をさせていただくようになり計6回、今回、企画をする際に大切にしてきたことを書かせていただくこととなりました。

何よりも、まずはコンサートのテーマづくり。今年のテーマは『ダダ打ーん』。団内でも「何これ?」と思わず首をかしげる団員も多かったです。それこそチャンスで、テーマを聞いて「思わずなんだろう?」と、興味をもってもらう、そんなテーマづくりにしてきました。今回のテーマはまだ未定!どんなテーマになるのかはお楽しみに!

次は、なんとと言っても指揮者選び。私が担当したコンサートでは、関西出身の井村誠貴先生と高谷光信先生のお二人を指揮者としてお招きしました。やっぱり関西出身者は話が上手い!!大阪出身の井村先生は、関西独特のユーモアとパワフルな話しぶり。そして人情。

深い温かみのある話し方は多くの岐響ファンの方にも人気があると聞いております。そして、高谷先生は、

京都出身ともあって「ほんなり」という言葉がピタリと合う気品ある出で立ちと話しぶり。しかし、それに反するような熱い指揮の姿は、多くのお客様の心をキャッチしているようです。ま、なんとと言ってもこのお二方に共通しているのは、岐響を愛してくださっていること。もう岐響とは何年も共演を重ねていて、お互いの思いを共有しながら、コンサートを創り上げてくださっていることです。そのため、コンサートが盛り上がりすぎて、予定していた時間をオーバーしたことも数知れず。今シーズンは、井村先生をファミリート、高谷先生を定期でそれぞれお招きします。岐響との長期にわたった関係から奏でられる曲を楽しんでいただければ幸いです。

そして、最後にファミリートコンサートは地元の演奏家との共演も大切にしています。近いものでは、『ダダ打ーん』の交響曲「岐阜」で共演した阿久津さんと暮石さん。『オペカル』のカルメン幻想曲で共演した辻さん、などなど多くの方々と共演することで、岐阜の音楽を発信しております。これからも多くの岐阜県の演奏家と共演していくことで、さまざまな繋がりや出会いを大切にしたいと思っております。

今年のファミリートコンサートでは和太鼓が大好評の、岐阜県立岐阜総合学園高等学校太鼓部のお二人にもご感想いただきました!

高校3年間太鼓を演奏してきましたが、オーケストラと共に演奏をするという経験は初めてでした。岩崎先生の指導のもと、阿久津さんと共に曲を覚えていきました。太鼓の演奏では、指揮者はいません。また楽譜もすべて暗譜をして、演奏をします。なのでオーケストラの皆さんと初めて練習をしたときは、苦勞しました。また、阿久津さんと対で演奏すると知って驚きました。遠く離れた分、遅れて聞こえるので大変でした。一番苦勞したのは、指揮棒で振っている拍に自分の太鼓が合っているのか分からなかったことです。ですが、井村先生や岐阜交響楽団の皆さんからたくさんアドバイスを励ましを頂き、少しずつですが慣れて自信が持てるようになっていきました。本番は楽しく打つことができました。交響曲「岐阜」は僕のお気に入りの曲の一つになりました。部活も引退し高校も卒業しましたが、太鼓を今も打っています。これからも音楽を楽しんでいきます。貴重な経験をありがとうございました。

暮石セイジ



私の11年間の太鼓人生の中で、初めてオーケストラと共演しました。和太鼓は、自分たちでタイミングを合わせて演奏するのに対し、指揮者を見て演奏するのはとても難しかったです。また、きれいな音色を奏でる多くの楽器と和太鼓との音のバランスをつかむのが大変でした。しかし、井村さんをはじめ多くの団員さんがあたたかく迎えてくださり、アドバイスをしてくださったおかげで楽しく演奏することができました。

わたしが大好きな和太鼓とコラボさせていただき、皆様に出会えたことに感謝の気持ちでいっぱいです。このような貴重な経験をありがとうございました。

阿久津 葵

平成28年度公益社団法人岐阜県交響楽団 役員

(敬称略)

代表理事(理事長) 岡本 太右衛門

副理事長 辻 正 理 事 内藤 宙

池田 直樹 中村 賢司

篠田 元弘 中村 雅彦

矢橋 修太郎 森 益男

神原 光夫 水谷 雄二

理事 岩砂 和雄 柳原 幸一

碓井 洋 山口 嘉彦

河合 進一 常務理事 木村 哲也

澤田 榮 服部 岩夫

篠田 祐八郎 早川 幸

田口 隆男 山田 哉

竹花 孝則 監 事 中原 丈夫

所 洋士 後藤 栄一郎

今年一月に副理事長辻正様よりいただきましたお手紙を掲載させていただきます。

新しい年を迎えました。昨年十二月二十三日忘年会では全く予期せぬ「米寿祝」を開いて下さり、心よりお礼申し上げます。

団員お一人お一人からメッセージをいただき「あ、こんなにも私を見ていただいていたのか」と感動しました。皆様のお気持ちそのまましっかりと持ち続けて参ります。高齢でも出来ませんが、岡本理事長のもと岐響の発展のため微力をつくします。

皆様に何かお礼をと思いましたが、ささやかではございますが、岐響へ小額納めさせていただきます。ありがとうございます。

岐阜県交響楽団副理事長 辻 正
親愛なる皆様へ

平成二十八年一月吉日

株式会社インフォアーム 代表取締役会長



岐阜県交響楽団練習場
「なんじゃもんじゃ」